

主催 倭文会

箏・三絃リサイタル 第二十二回

後援 大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会
大阪文化団体連合会

平成二十六年

とき **六月七日(土)** 午後五時三十分開場
六時五分開演

ところ **国立文楽劇場小ホール**

大阪市中央区日本橋一丁目12-10 電話(06)6212-2531(代)
(地下鉄千日前線・堺筋線・近鉄線「日本橋駅」下車の番出口より徒歩一分)

「上方の風雅」(七)

この音楽(地歌・箏曲)は十六世紀半ごろ上方(大阪・京都)で生まれた
優美な叙情歌。十八世紀円熟盛大、十九世紀半ごろ完結している。
江戸時代日本列島は緑に覆われ、機械文明が開かれていない町中は
静寂感が漂い、閑静な佇まいであったと思われる。
豊かな天然自然の変化する神秘的な美しさ、移ろう風情に心の機微を表現している。
海外の影響を受けていない日本独自の上方の感性が織りなした音楽である。

◆主演 **斉藤春子**(箏・三絃)

◆賛助出演 **倉橋容堂**(尺八)

守山借子(箏)

◆お話 **平野憲司**(一級建築士事務所 beginning 所長)

◆演目

善知鳥

作曲 杉本為三

(生没不詳 十七世紀末から十八世紀前期の人)
歌詞は謡曲「善知鳥」から採っている。
海外ではバツハのころ。

新青柳

作曲 石川勾当

(生没不詳 十八世紀末から十九世紀前期ごろ)
歌詞は謡曲「遊行桜」から採り、三絃と箏の
合奏を主体にした曲。
海外ではベートルベン、シューベルトのころ。

雲井の曲

作曲 八橋検校

(二六一四〜一六八五)
和歌六首を組み合わせた箏うた。
海外ではバロック前期リユリ、カリシミのころ。

石橋

作曲 芳沢金七、芳沢藤四郎

(いずれも生没不詳 十七世紀末から十八世紀前期ごろ)
歌詞は謡曲「石橋」の詞章を補綴したもの。
海外ではバツハのころ。

入場料:前売 3,000円(当日 3,500円)※全自由席 3月15日発売

チケット取扱いお問合せ:倭文会 (しずのかい) TEL 06-6458-7030・大阪文化団体連合会 TEL 06-6949-4646・国立文楽劇場

郵便振替の場合:口座番号 00900-7-179711(加入者名:倭文会) 確認次第お届けいたします。